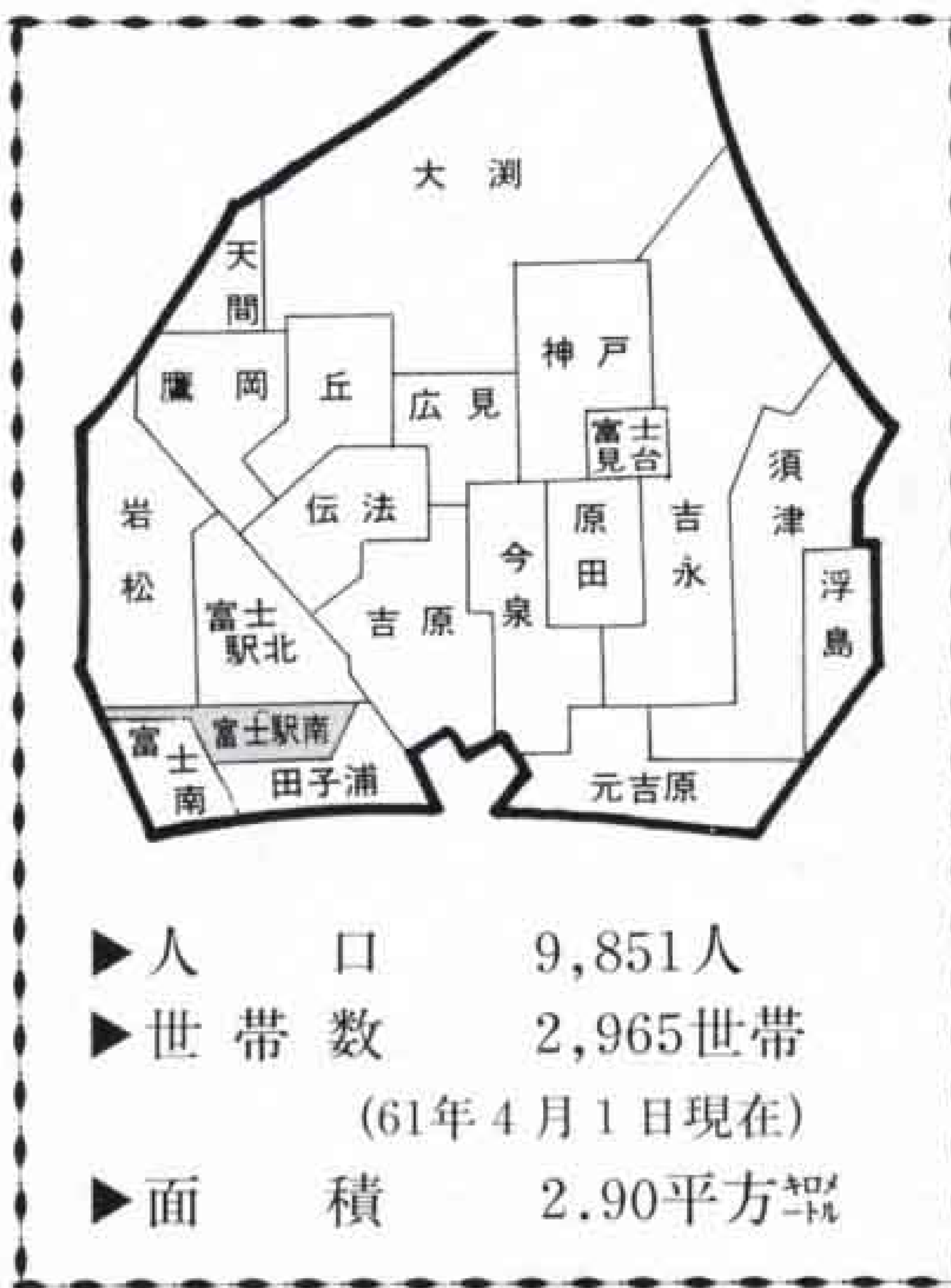


かごと ネットワーク



△新幹線新駅との接続地域として発展が予想される駅南地区



富士駅南

ふれあいと活気あふれる クリーンと クリーンのまち

このコーナーでは、公民館単位に各地区の話題や人物を紹介します。あなたの地区でのちょっとしたこぼれ話、出来事、ご意見などありましたらご連絡ください。8月は富士駅北、9月は天間地区です。連絡先…市内永田町1-100 市広報広聴課 ☎51-0123 内線2822、締め切りは毎月15日です。

富士駅南地区は、国鉄富士駅の南側を中心に東西に長く広がる地区です。この地は昔、賀嶋といわれ、平安時代からの荘園、賀嶋荘のあったところでした。

この荘園は、岩本実相寺から、元吉原今井、潤井川西岸までを含んでいましたが、両端の地を除き、富士川が乱流していて、わずかの微高地に集落が点在していたにすぎませんでした。

しかし、江戸時代初期、古郡孫太夫父子二代による「かりがね堤」の完成で新田が開発され、加島五千石といわれる稲作地となりました。

地区は、近年まで昔の面影を残していましたが、駅前の区画整理も重なり、高度経済成長期の人口流入の地の利もあって、住宅地として発展してきました。

水戸島の南西の地域は、水田と特産「富士ナシ」の果樹園の広がる田園地帯として残っています。

また、地区の東は、東芝、大昭和の二大企業を初めとする工業地帯となっています。



おじやます
おします

サッカー一家

下横割 長橋さん一家

子供がサッカー少年団に入ったのをきっかけに、お父さんのみならずお母さんまでサッカーに熱中しているのが下横割の長橋さん一家。今回は、チームワーク満点のサッカー一家におじゃましました。

長橋さん一家は、世帯主の和元さん、妻久江さん、母ノブさん、小五の康弘君、小二の愛ちゃん小一の佳佑君の六人家族です。

「サッカーの練習がほとんど毎日あるので、生活のリズムは練習の予定に合わせています」（久江さん）

和元さんは、現在、育成会の役員と富士選抜チームの世話役をしています。

また、久江さんは、二年前に母親チームができたときから始め、いまはライトウイングとして活躍しています。

末っ子の佳佑君もことしからチームに加わり一層にぎやかになりました。

「自然とルールがわかってきました。私は家事で応援します」と言うのは一家のゴールキーパー役ノブさん、愛ちゃんとともに大事な応援団です。

家族全員で一つのことに取り組み、チームワークが満点家族です。



夏の高校野球、富士球場の審判主任

うんの海野郁夫さん
平垣 (46歳)

「審判は現役に未練があるとできません。日曜日はつぶれることが多い、会社勤めの人は休暇を取ることもあります。結局は自分が好きでやっているわけですが家庭と職場の理解は欠かせませんね」と試合中の厳しい顔とはうって変わった笑いを見せる。
「選手があいさつしてくれるのが一番うれしい」という海野さんに、忙しい夏がまたやってくる。

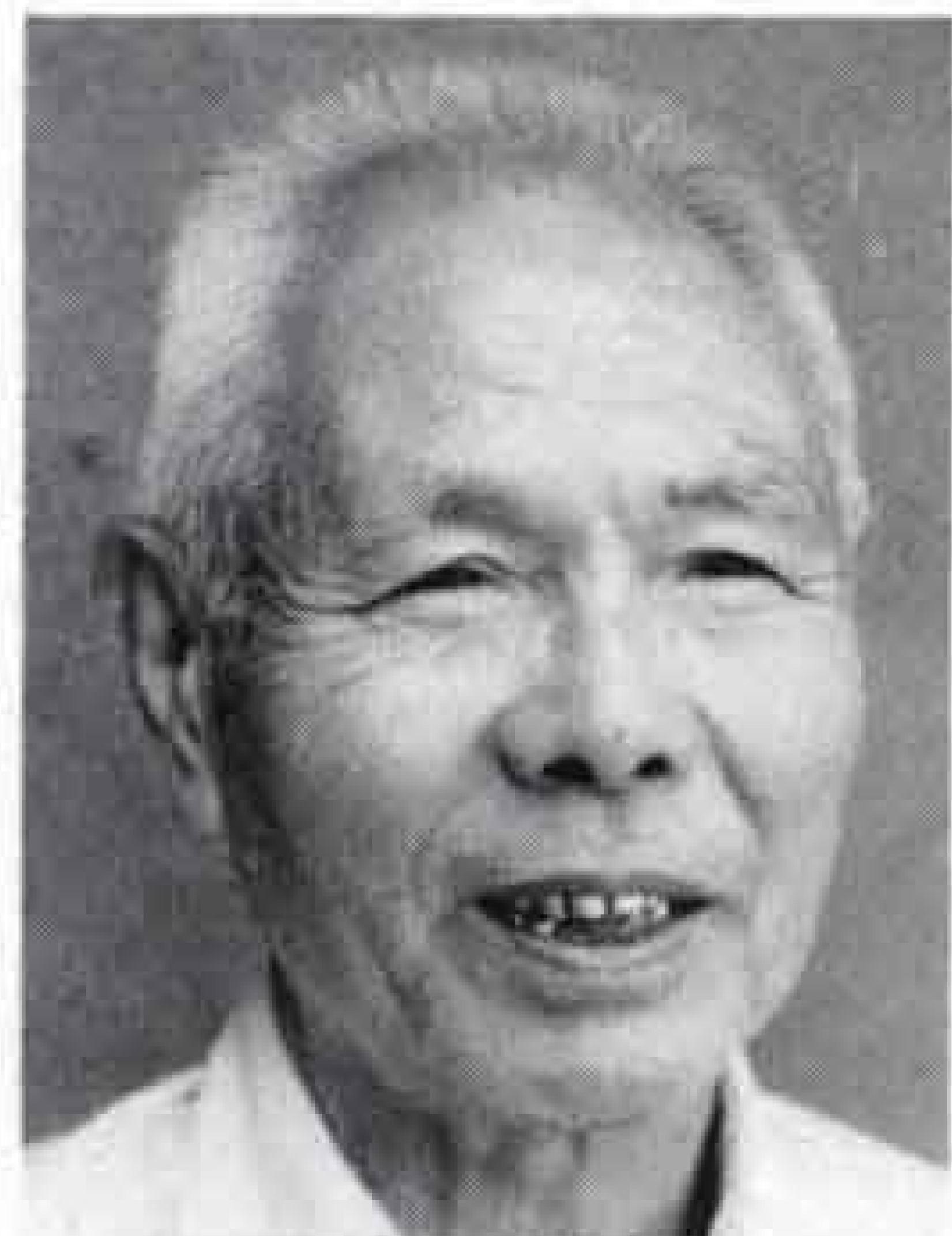


七月十二日から、夏の高校野球地方大会予選が始まります。大会期間中、炎天下で、選手同様体力と集中力を要するのが審判員の皆さん。海野さんは、富士球場の審判主任として、この期間、商売そっちのけで球児たちの黒子をつと

めます。
学生時代は、野球、テニス、ラグビーなどをこなしたスポーツマン。準硬式野球では、自分が代表をしていた「スパロース」で国体四位になったこともあります。
審判を始めたのは昭和三十八年ごろで、現在、富士の地区長もつとめています。



我がまちを語る



佐野一郎さん
水戸島本町(75歳)

富士駅南地区は、戦前まで一面のナシ畑でした。終戦後は、交通の便がよい上、地域にある東芝や大昭和製紙富士工場などが大きくなり、人口がふえていきました。そして、田子の浦港の開港によ

り進出した企業の関係者も多く転入してきました。
人がふえれば商店もできるというわけで、現在のような街になりました。ですから、早い遅いの差こそあれ、大部分が戦後住み出した人ばかりです。
この地区の人は、みんな人柄のよいのが特徴です。頼まれるといやと言えない人が多く、やり出すととことんやるタイプです。そのせいか、地区の体育祭はほとんどの家が参加し、大変にぎやかです。これから新幹線新駅ができると、この地区は富士駅との接続部分に当たり、発展が楽しみです。



さわやかな歌声を...
コーラスグループオレンジの会



青春のエネルギーを体操に
青木朋子さん(横割)

富士東高一年生の青木朋子さんは、体操に青春のエネルギーを燃やしています。
青木さんは、小学校四年生ときから体操を始め、中体連では全国大会に出場。先日行われたインターハイ東部予選では、一年生ながら個人総合優勝を果たしました。次は国体予選。休む間もなく練習に励んでいます。

「フレッシュでさわやかな歌声を...」とオレンジの会と命名。昨年、会発足十周年を迎えた息の長いコーラスグループ。恵まれた指導者(指揮松島さん、ピアノ斉藤さん)のもとに、二十代から五十代まで幅広い層が参加。音楽を通じて、それぞれ年代にあった女性らしさや情操を身につけたいという会員の皆さんです。



ナシをこつこつと四十年
大石信雄さん(水戸島)

「ナシのよしあしは何といっても甘みだネ...。幸いに、このあたりは気候、土質に恵まれていてよい品質のナシができるネ」とナシづくり四十余年のキャリアを持つ大石さん。「何でもそうだが、特にナシは、常に手をかけてやらないといものはできないネ」と富士ナシの復活に期待を寄せるナシづくりの大ベテランです。

あの人・この人・こんなこと

